平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月29日

上場会社名　神奈川中央交通株式会社　　上場取引所　東
コード番号　9081　URL　http://www.kanachu.co.jp
代表者　(役職名) 取締役社長　(氏名) 三澤　憲一
問合せ先責任者 (役職名) 総務部長　(氏名) 向井　隆夫　TEL 0463-22-8800

四半期報告書提出予定日　平成25年8月13日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	27,600	△0.9	2,156	1.8	2,119	4.6	1,284	△29.5
25年3月期第1四半期	27,856	9.2	2,118	44.9	2,026	50.6	1,820	128.4

(注)包括利益　26年3月期第1四半期　31百万円　(△98.1%)　25年3月期第1四半期　1,645百万円　(257.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	20.75	―
25年3月期第1四半期	29.42	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	137,629	37,527	25.0
25年3月期	139,091	37,655	24.9

(参考) 自己資本　26年3月期第1四半期　34,448百万円　25年3月期　34,621百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	―	2.50	―	2.50	5.00
26年3月期	―				
26年3月期(予想)		2.50	―	2.50	5.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	54,400	△3.1	3,220	△17.8	2,920	△19.9	2,060	△18.3	33.29
通期	106,700	△3.8	5,270	△14.5	4,650	△17.7	3,030	△20.0	48.96

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	63,000,000 株	25年3月期	63,000,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	1,113,171 株	25年3月期	1,111,242 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	61,887,311 株	25年3月期1Q	61,891,357 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（セグメント情報） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、長引く欧州の債務問題などや、株価・為替の変動により先行きは不透明な状況にありましたが、経済政策の効果により一部に企業収益の回復が見られました。

このような状況のもと、当社グループ各社は、各部門において積極的な増収策を図るとともに、経費の節減ならびに経営全般の効率化に取り組んでまいりました。その結果、当第１四半期連結累計期間の売上高は276億円（前年同期比0.9％減）、営業利益は21億５千６百万円（前年同期比1.8％増）、経常利益は21億１千９百万円（前年同期比4.6％増）、四半期純利益は12億８千４百万円（前年同期比29.5％減）となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

（一般旅客自動車運送事業）

乗合業においては、中井町全域と隣接する秦野市、二宮町の一部地域でデマンドバスの本格運行を見据えた実証実験運行を引き続き行いました。また、プレジャーフォレスト（相模原市）や神奈川県立花菜ガーデン（平塚市）などの観光施設にアクセスする路線の増便を行うとともに、６月には平塚営業所管内において乗降方法を「中乗り・前降り」方式に変更し、神奈川県西部管内の乗降方法を統一することで利用者利便の向上を図りました。しかしながら、利用客数が減少し減収となりました。

貸切業においては、旅行会社などへ積極的な営業活動に努めたことや増車の影響により増収となりました。

乗用業においては、羽田空港への定額運賃サービスの利用が堅調に推移するとともに、６月に神奈中タクシーグループによる共同配車を横浜市戸塚地区に導入し、実施エリアを拡大することで利便性の向上を図りましたが、需要の低迷により減収となりました。

以上の結果、一般旅客自動車運送事業全体の売上高は150億２千万円（前年同期比0.2％減）、営業利益は11億３千４百万円（前年同期比3.2％減）となりました。

（不動産事業）

分譲業においては、平塚市めぐみが丘にて１棟の建売分譲を行いました。また、賃貸業においては、都内へのアクセスがより便利になった横浜駅の徒歩圏にあるビルを建替え、３月より賃貸を開始した「高島町賃貸マンション」が通期寄与したほか、新規テナントの入居により増収となりました。

以上の結果、不動産事業全体の売上高は11億２千９百万円（前年同期比5.8％増）、営業利益は５億７千５百万円（前年同期比11.4％増）となりました。

（自動車販売事業）

自動車販売事業においては、商用車販売にて既存顧客に対する車検・整備の営業活動を強化したことなどにより車両整備が増加しました。また、輸入車販売においてもモデルチェンジの効果に加え、ショッピングモールでの出張展示会を実施したことにより販売が好調に推移し増収となりました。

以上の結果、自動車販売事業全体の売上高は50億８千６百万円（前年同期比2.8％増）、営業利益は１億４千５百万円（前年同期比61.4％増）となりました。

（レジャー・スポーツ事業）

スポーツ施設業においては、初心者向けスイミング教室の開催やジュニアアスリートの各種大会での好成績の寄与により会員数が増加するとともに、プロボウラー招致によるボウリング大会の開催などにより増収となりました。

ゴルフ場業においては、新規顧客獲得のためオープンコンペを開催するなど集客に努めましたが、近隣ゴルフ場との低価格競争により利用客数が減少し減収となりました。

温浴業においては、各種イベントの開催などにより増収となりましたが、遊技場業においては、近隣施設との競合により利用客数が減少し減収となりました。

以上の結果、レジャー・スポーツ事業全体の売上高は23億１千８百万円（前年同期比5.4％減）となりましたが、減価償却費の減少などにより、営業利益は１億４千１百万円（前年同期比10.0％増）となりました。

なお、遊技場業はグループ外部の承継会社に７月１日を効力発生日とする会社分割（簡易吸収分割）を行っております。

（その他の事業）

飲食・娯楽業においては、５月に８店目となる「ドトールコーヒーショップ東日本橋店」を新規出店いたしました。また、期間限定メニューの導入や各種キャンペーンを行うなど顧客満足度の向上に努めましたが、前年度における不採算店舗の閉店などにより減収となりました。

ホテル業においては、宿泊部門ではニーズを捉えた各種宿泊プランを設定し稼働率の向上に努めました。また、料飲・宴会部門ではケーキ・ミールバイキングなどを実施するとともに、企業・団体に対し積極的な営業活動を図り新規顧客の獲得と既存顧客の囲い込みに努めましたが、近隣施設との競合により減収となりました。

その他の事業においては、総合ビルメンテナンス業における設備更新工事や設備保守管理の新規受注増により増収となりました。

以上の結果、その他の事業全体の売上高は65億４千３百万円（前年同期比0.3%増）となりましたが、商用車架装部品の仕入原価の増などにより、営業利益は１億８千１百万円（前年同期比23.5%減）となりました。

（２）財政状態に関する説明

①財政状態の変動状況

総資産は、投資有価証券の時価評価額が減少したことや、減価償却などにより、前期末に比べて14億６千１百万円減少し、1,376億２千９百万円となりました。

負債は、賞与引当金が増加しましたが、借入金の返済が進んだことなどにより、前期末に比べて13億３千３百万円減少し、1,001億１百万円となりました。

また、純資産は、利益剰余金が増加しましたが、その他有価証券評価差額金が減少したことなどにより、前期末に比べて１億２千７百万円減少し、375億２千７百万円となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年３月期第２四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、概ね計画通りに推移していることから、現時点において平成25年４月26日発表の数値から修正しておりません。

２．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,706	2,905
受取手形及び売掛金	7,008	6,772
商品及び製品	3,939	3,803
仕掛品	2	5
原材料及び貯蔵品	431	429
その他	3,015	3,579
貸倒引当金	△56	△61
流動資産合計	17,047	17,433
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	75,397	75,437
車両運搬具	36,939	36,867
土地	60,642	60,736
その他	14,695	15,366
減価償却累計額	△86,908	△87,425
有形固定資産合計	100,765	100,982
無形固定資産	968	908
投資その他の資産		
投資有価証券	17,034	15,051
その他	3,295	3,274
貸倒引当金	△19	△20
投資その他の資産合計	20,310	18,304
固定資産合計	122,044	120,195
資産合計	139,091	137,629
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,183	5,144
短期借入金	24,176	22,156
未払法人税等	1,733	1,278
賞与引当金	2,107	3,322
その他	10,754	13,012
流動負債合計	44,955	44,914
固定負債		
長期借入金	33,094	32,165
退職給付引当金	5,522	5,442
役員退職慰労引当金	50	46
その他	17,812	17,533
固定負債合計	56,479	55,187
負債合計	101,435	100,101

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,160	3,160
資本剰余金	693	693
利益剰余金	26,474	27,603
自己株式	△590	△591
株主資本合計	29,737	30,865
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,792	3,504
繰延ヘッジ損益	91	78
その他の包括利益累計額合計	4,883	3,582
少数株主持分	3,034	3,079
純資産合計	37,655	37,527
負債純資産合計	139,091	137,629

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成25年４月１日 至 平成25年６月30日）
売上高		
一般旅客自動車運送事業営業収益	14,991	14,959
不動産事業売上高	1,065	1,128
その他の事業売上高	11,799	11,512
売上高合計	27,856	27,600
売上原価		
一般旅客自動車運送事業運送費	12,449	12,466
不動産事業売上原価	381	390
その他の事業売上原価	9,245	8,974
売上原価合計	22,076	21,831
売上総利益	5,780	5,768
販売費及び一般管理費		
販売費	2,349	2,320
一般管理費	1,311	1,291
販売費及び一般管理費合計	3,661	3,611
営業利益	2,118	2,156
営業外収益		
受取配当金	93	101
その他	76	70
営業外収益合計	169	171
営業外費用		
支払利息	225	188
その他	36	21
営業外費用合計	262	209
経常利益	2,026	2,119
特別利益		
固定資産売却益	241	55
補助金収入	80	105
その他	773	26
特別利益合計	1,095	188
特別損失		
固定資産圧縮損	76	100
固定資産除却損	54	31
その他	25	6
特別損失合計	156	138
税金等調整前四半期純利益	2,965	2,169
法人税、住民税及び事業税	1,267	1,290
法人税等調整額	△171	△463
法人税等合計	1,095	826
少数株主損益調整前四半期純利益	1,870	1,342
少数株主利益	49	58
四半期純利益	1,820	1,284

四半期連結包括利益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	1,870	1,342
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△180	△1,297
繰延ヘッジ損益	△44	△12
その他の包括利益合計	△224	△1,310
四半期包括利益	1,645	31
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,603	△16
少数株主に係る四半期包括利益	42	48

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報）

前第１四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年６月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

（単位：百万円）

	一般旅客自動車運送事業	不動産事業	自動車販売事業	レジャー・スポーツ事業	その他の事業	計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
売上高								
外部顧客への売上高	14,991	1,065	4,777	2,440	4,582	27,856	－	27,856
セグメント間の内部売上高又は振替高	60	1	172	11	1,942	2,188	△2,188	－
計	15,051	1,067	4,949	2,451	6,524	30,045	△2,188	27,856
セグメント利益	1,171	516	90	128	237	2,145	△26	2,118

（注）「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通業、飲食・娯楽業、ホテル業等を含んでおります。

当第１四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年６月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

（単位：百万円）

	一般旅客自動車運送事業	不動産事業	自動車販売事業	レジャー・スポーツ事業	その他の事業	計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
売上高								
外部顧客への売上高	14,959	1,128	4,606	2,307	4,598	27,600	－	27,600
セグメント間の内部売上高又は振替高	60	1	479	11	1,945	2,498	△2,498	－
計	15,020	1,129	5,086	2,318	6,543	30,098	△2,498	27,600
セグメント利益	1,134	575	145	141	181	2,179	△22	2,156

（注）「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通業、飲食・娯楽業、ホテル業等を含んでおります。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。